

プロ野球、日本シリーズ関西対決に盛り上がる裏では…。

平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 長らく休載させていただいたSANKYO通信NEOですが、**次号はまだですか？楽しみにしています！**の声をたくさんもらい、復活させていただくこととなりました。今後とも何卒よろしくお願いたします。
 11月、プロ野球界では戦力外通告、トライアウトとプロスポーツの厳しさを感じる今日この頃、今回は当社が新たにサービスを開始いたしましたアスリートのセカンドキャリアについてご案内いたします。



サンキョウ
 テクノスタッフ
 公式キャラクター
 「もあちゃん」



スポーツがもたらす経済効果

2022年のサッカー、2023年には野球、バスケットボール、ラグビーなど様々なスポーツの世界大会が開催されました。右の図を見ていただくとスポーツに対する関心と経済効果がお分かりいただけると思います。また大会をきっかけに国内リーグの観戦やスポーツ選手を目指す子供たちが増えていくことを考えると効果はそれ以上だと言えます。

スポーツ世界大会における日本国内の経済効果と視聴者数

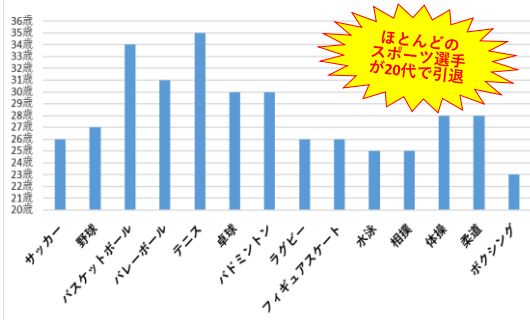
大会	経済効果試算(億円)	累計視聴者数
2022年 FIFAワールドカップ・カタール大会	163億円	7526万人
2023年 FIBAバスケットボールワールドカップ	63億円(沖縄県内のみ)	5689万人
2023年 第4回WBC(日本優勝)	650億円	9446万人

残酷な現実

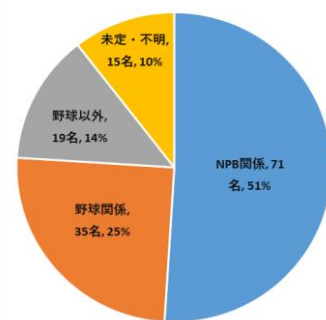
そんな華やかなスポーツ界の見えないところとして、プロのアスリートとして活躍できるのは一握り。さらにプロの世界に入れたとしても、右の図のように20代で引退する選手がほとんどです。社会人経験もままならず、新たなキャリアを歩まなければなりません。

右のグラフはプロ野球選手の引退後の内訳になります。年間約140名の選手が引退しますが、半数近くの人がNPB関係以外のキャリアを選択せざるを得ないのです。野球関係25%(35名)についても内20名のアスリートが社会人野球や独立リーグに移るも数年後には改めてキャリアを再検討しなければなりません。

平均引退年齢



プロ野球の引退後のキャリア



～アスリートが社会に進出するお手伝い～

「アスリートのセカンドキャリア」

多くのプロアスリートが幼少期からずっとそのスポーツに全てを捧げられました。スポーツを続けられなくなったアスリートは新たなキャリアに移行しなければなりません。しかし社会人経験が少なく苦労される方が多いのが現状です。

逆に、選手生活の中で培った上司・先輩とのコミュニケーションや困難を乗り越えるストレス耐性などを存分に発揮して活躍される方もいらっしゃいます。



企業がアスリートを受け入れるメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> 潜在層との出会い。 競技で培ったコミュニケーション能力の高さ。 競技で培った取り組み姿勢の高さ。 20～30代と若い世帯が多い。 企業のブランド力を強化できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な社会経験・スキルがない人がいる。 即戦力ではなく長期的な教育が必要。 給与水準、生活レベルなどの感覚にズレがある人もいる。

ジョブ型雇用が広がり始め、高スキル人材の中途採用が増えていく流れの中、次に企業の課題になっているのが転職リスクの増加、連帯感・チームワークの低下などがあります。

厳しい縦社会の中で、チームや監督・コーチの求めるものを理解する力や結果主義に応えるための努力をしてきたアスリートの経験が、これからの企業にとって一助となる可能性を秘めております。

当社ではより企業様が受け入れ易くなるよう、上記デメリットを軽減させる取り組みを強化し、アスリートの方の情熱と誠実さをビジネスや他の分野で活かせる新たな可能性として、その架け橋となる存在になるよう努力して参ります。



裏面へ続く⇒

支援団体と連携したアスリートのエントリー

支援団体に来た相談者を当社にて面談の実施。

主に子供たちへのスポーツ支援を行っている「日本未来スポーツ振興協会」に、近年アスリートからキャリアについての相談が増えています。人材サービスを行う当社として未来スポーツ振興協会と連携し、相談に来たアスリートとの面談を行っております。

- ・デュアルキャリア…スポーツを継続しながらの就業（マイナースポーツなどに多い）
- ・セカンドキャリア…引退後の就業（スポーツに携わるor携わらない）
- ・体育系学生…学生時代からスポーツにのみ特化して活動してきた方

上記のようにアスリートといっても様々な方がいますので、何度も面談を繰り返し、将来ビジョンや得意なこと、苦手なことを一緒に確認し、並走しながら企業様へのマッチングを行っております。



一般社団法人 日本未来スポーツ振興協会
代表理事 小川 健太
小学2年時から軟式野球を始め、名門横浜高校にて主将として甲子園ベスト4を経験。その後明治大学硬式野球部、九州三菱自動車硬式野球部での活動を経て2015年に選手引退。自身がひとり親家庭で育ち、同じ境遇の仲間たちが生活困窮を理由にチームを去っていった経験から、生活環境に関係なく一人でも多くの子供たちにスポーツを通して豊かな人格形成と成長を育んでいく環境づくりをサポートしていきたくという想いで団体の活動に取り組んでいる。



一般社団法人 日本未来スポーツ振興協会

元プロアスリートによる面談の実施

経験談を交えた面談により本音を引き出す。

元プロ野球選手の山村宏樹氏が当社のアドバイザー兼コンサルタントとして求職者と面談を実施しております。

- ・社会に出ていくにあたり予め自ら学ばなければならないことは何か。
- ・条件面など、世間と本人の認識のズレをしっかりと知ってもらう。
- ・社会に出ていく際にスポーツ以外で武器になるものは何か。
- ・不安を希望にしていけるような助言。
- ・本人の希望する職種と本人に向いている職種。

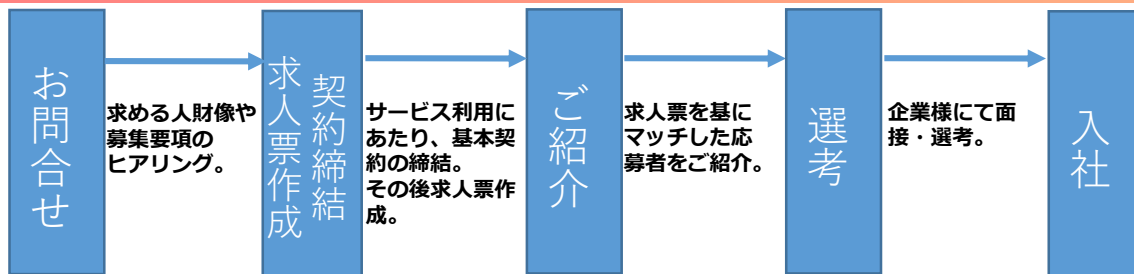
上記内容などを同じアスリート目線で対話をすることで求職者の本音を引き出すと同時に、ときには厳しく今の状況をしっかりと理解・認識させて価値を高めるための話をしております。



山村 宏樹（アドバイザー）
元プロ野球選手（投手）、野球解説者、高校野球指導者。山梨県立甲府工業高等学校を卒業後、1994年のNPBドラフト会議で、阪神タイガースから1巡目で指名されたことを機に阪神タイガースに入団。その後、大塚近鉄バファローズ、東北楽天ゴールデンイーグルスで計18年間投手としてプレー。現役引退後の2014年より、野球解説者などの活動と並行しながら、地域企業の営業職や「株式会社サンキョウテクノスタッフ」のアドバイザー兼コンサルタントを務めている。

当社はアスリートのセカンドキャリア支援として職業紹介を行っております

◆サービスの流れ◆



詳しい内容については担当にお問合せください！！

サンキョウテクノスタッフからのお知らせ

プロバスケットボールリーグ所属
三遠ネオフェニックスと2023-2024シーズンの
スポンサー契約を締結いたしました。



愛知県（東三河地区）、静岡県（遠州地区）をホームタウンとして活動するB.LEAGUE B1 中地区所属のバスケットボールチーム

JHL（日本ハンドボールリーグ）所属
アースフレンズBMと2023-2024シーズンの
スポンサー契約を締結いたしました。



東京都（大田区）を中心に八王子・立川、川崎をホームアリーナとして活動するハンドボールチーム

観戦のご希望は担当者にお問合せください。

株式会社サンキョウテクノスタッフ

愛知県豊橋市西幸町幸22-2 三協ビル本館
TEL 0532-46-7017 FAX 0532-38-5065

安心を提供する企業へ

